

連合2018平和ナガサキ集会に参加して

連合平和行動の一環として標記集会が8月8日(水)～10日(金)にかけて実施され、定年を目前に控えて一度この目で見てみようと思い参加させていただきました。

初日から驚きの連続でした。連合主催のナガサキ平和集会に3,300人余の組合員及びその家族らが全国から参加したこと、地元の連合長崎の若い組合員の熱い歓迎、そして何よりも高校生たちの平和への思いが十分すぎるほど伝わってきたことに感動しました。2日目の長崎市主催の平和祈念式典の時でもそうでしたが、被爆者からの心からの悲痛な訴えにも心を動かされました。

しかし、「戦争の記憶をどのように伝えていけばよいのか」ということを、ご冥福を祈りながら考えました。Peace・Walkの時のように連合長崎の女性・青年委員会のメンバーが体験者に代わって説明していくということも有効な取り組みではありますが、「1945年8月6日、9日、15日に何がありましたか」「1941年12月8日に何がありましたか」という質問をしても半数以上の若い人たちが怪訝な顔をするのが実態です。

「日本がアメリカやイギリスなどと戦争をしていた」という認識すらなくなってきているのではと思います。学校の授業でも入試に出る範囲しか教えず、現代史にはあまり触れないという現実、3世代同居が極端に減少し祖父母と話をする機会がなくなりつつあることなども原因の一つだと思います。

IT企業のヤフーが本社に第二次世界大戦のコーナーを設け、企業見学に訪れた高校生や大学生らを案内し、当時の新聞記事などを見せて説明をしているという取り組みなどは非常に有効な方法だと思います。また、同社は「3分でわかる第二次世界大戦」という動画も流しており、再生回数は100万回を超えているとのこと。こうした取り組みを行う企業が増えていけば風化は一定防げるのではないかと思います。

いま、大国を中心に自国の利益を優先する考え、保護主義が広がり始めています。過去の歴史を振り返り、戦争のような過ちを二度と起こさないよう皆が知恵を絞らなければなりません。戦争が始まると多くの犠牲者が出て、苦しみや悲しみが無限に広がります。8月という日本各地が祈りに包まれるこの時期に改めて歴史を学び、考える機会になればと思います。

連合北河内 寝大畷地区協議会
(自治労寝屋川市役所職員労働組合)
森 本 健 司